

## 14 唯識思想入門

【全4回】／開催方法：現地

たけむらまきお  
竹村牧男

東洋大学名誉教授



受講料 会員料金：¥9,000 早割価格：¥8,000（納入期限：10月17日）

【日程・時間】【全4回】 10月24日(月) 13:30～15:00・15:20～16:50  
10月25日(火) 10:30～12:00・13:30～15:00

■受講に必要なもの

[テキスト] レジューメ配布

唯識思想は、インドで5世紀頃、無著・世親らによって大成されました。それは大乘仏教全体に共通の世界観を提供しており、大乘仏教の基本的な教義を担うものとなっています。7世紀に、玄奘三蔵がこれを中国に移入し、法相宗が成立しますが、それは時を置かずに日本にも伝えられ、奈良の興福寺や薬師寺で研究されました。

唯識思想の代表的な文献には、無著の『撰大乘論』、世親の『唯識三十頌』などがあります。『唯識三十頌』は、わずか30の詩に、唯識思想のすべてを盛り込んだ、非常に優れた作品です。法相宗の根本聖典は『成唯識論』ですが、これは『唯識三十頌』の詳細な注釈書です。

この唯識思想は、唯心論の一種と思われがちですが、単なる唯心論ではなく、非常に精緻な哲学を展開しています。特に意識下の末那識・阿頼耶識等の説明は人間存在の深みを克明に捉えたものであり、また唯識思想に固有の三性説（遍計所執性・依他起性・円成実性）は、言語・認識・存在の関する、現代哲学にも通じるような高度な哲学を開演しています。私自身は、唯識思想は事的世界観を説くものであり、唯心論でも唯物論でもない、唯事論の哲学であるとおもっています。

唯識思想の哲学体系の中に、世界観・人間観のみならず、修道論、仏身論その他、仏教が論じるすべての主題を包含しており、しかもそれらに関してきわめて論理的に精緻な議論を貫いていて、現代人にとっても興味は尽きないものです。

今回の講義では、この唯識思想について、1、大乘の諸法の分析、2、阿頼耶識の理論、3、三性説の哲学、4、修行と仏の世界という4つのテーマの下に、出来るだけわかりやすく解説したいと思っています。

### 【参考書】

『インド仏教の歴史』 著者：竹村牧男 出版社：講談社学術文庫 出版年：2004